

ロシア、フランス、イタリアの詩の世界を味わうひととき

創立 120 周年記念事業 YouTube 配信で解説と朗読をたのしむ

2018 年 9 月にアラビア語の詩歌の講演会から始まった「世界の詩歌と書のコラボレーション」シリーズの命結ぶ旅で取り上げてきた言語は、アラビア語、英語、日本語、韓国・朝鮮語へ、そしてユーラシアの詩歌の世界へと広がり、最終回にロシア語とフランス語、イタリア語の詩歌を取りあげることになりました。

今回は「平和への祈り」につながる詩歌を 3 人の言語・言葉の達人である講師の方々に選んでもらい、朗読・歌唱のパフォーマンスを披露していただき、言語の響きを楽しめる「饗宴」にしていただきました。まず、「祈り」をテーマにロシアの詩歌を、東京外国語大学名誉教授の渡辺雅司（まさじ）先生が、次いでフランスの詩歌を「愛」をテーマに、詩人で学習院大学名誉教授の吉田加南子先生が、そして最後にイタリアの「心」を歌った詩歌についてイタリア婦人会会員で通訳のマルタ・モレットさんがお話しくださいました。

渡辺先生は明治初期に教師として来日した亡命ロシア人のレフ・メーチニコフについての興味深いお話から始められ、明治日本との関わり、足跡について熱く語られた後、吟遊詩人ブラート・オクジャワ作詞作曲の「祈り」（別名「フランソワ・ヴィヨン」）と「ワロージャ・ヴィソツキーについて」の 2 篇の詩を朗読し、歌唱くださいました。それらの詩と解説を通して、ロシアとロシア人の魂を歌うオクジャワとヴィソツキーという 2 人の偉人の名が心に刻まれていきます。また、ロシアの芸術家、詩人、作家たちと親交のある渡辺先生のお話には、ロシア人、ロシア文化、ロシアへの深い愛があふれているので、聴く者の心を奪わずにはいません。YouTube 等でオクジャワの音楽をお聴きくださるよう強くお勧めします。

フランスの詩を紹介くださる吉田加南子先生は津田塾大学で 1976 年春学期と 1980 年から約 10 年間、講師をしておられました。高見順賞を受賞された著名な詩人でもあり、多くの作品を発表され、著書と訳書も多数あります。吉田先生は「すべての詩は愛」。「世界を受け入れ、自分を差し出すこと、そこで世界と共感し合うもの。他者へと開かれることが広い意味での愛となる」とはじめに述べておられます。そして、それを一つの短い詩に凝縮しているアンドレ・デュブーシェの「流れ星」という作品を取り上げ講釈くださいます。不在と現存、生と死、光と闇、幽明の境など、これらが触れ合い、溶け合い、共感することを示す詩として示されます。「この世界は目の前にある見えないものだけが存在しているのではなく、すでにないもの（死者）とともにこそ世界はある。生と死のつなぎ

目、裂け目からあちらの世界がこちらに言葉がせり出してくる」という表現で、死者との出会いの一瞬、命そのものの生きられる一瞬をこの詩から感じ取れると示唆されます。何度も繰り返し聴き直したくなる哲学的な心にしみるお話です。これにいざなわれてフランス詩の世界への探訪を続けたい人は少なくないことでしょう。

ヴェネチア生まれで来日 20 年目の、日本史にも茶にも酒にも通じておられるマルタ・モレットさんの取り上げられたイタリアの詩は、ジャンニ・ロダーリの子ども向けの短い詩 2 篇『リマインダー』と『雨の後』、そしてフランコ・バッティアートの『La Cura』という詩です。日本でも多くの作品が紹介されているロダーリは児童文学の巨匠と言われ、昨年生誕 100 周年で再注目されました。バッティアートはイタリア音楽界のイル・マエストロ（巨匠）と言われ、シンガーソングライターで映画監督、画家でもありましたが、今年 5 月に突然亡くなり、その訃報にマルタさんは大きな悲しみと喪失感に襲われたそうです。この機会に、子どもの頃から親しんできたロダーリの詩と、愛してやまないバッティアートの深い思索から生まれた詩を日本人にもぜひ知ってほしいとお話してくださいました。3 篇の詩を通して、イタリアではどのように平和への思い・祈りが語られてきたか、イタリア人としての感性と解釈で誠実に解説されます。また、イタリア語のネイティブらしく、リズムカルで流れるような詩の朗読を披露していただきます。なお、マルタさんは 2001 年に来日され、日本金融史、経済史の研究のかたわら、日本語、英語、ポルトガル語の通訳、翻訳家として活躍されています。

ロシアの吟遊詩人ブラート・オクジャワ同様、マルタさんがお勧めしておられるように、フランコ・バッティアートの歌声も YouTube で聴くことができますので、ぜひ聴いてみてください。不思議なことに、ロシアとイタリアの 2 人の吟遊詩人の歌声がどこか重なって聴こえてこないでしょうか？

それぞれ独自の視点から語られる三者三様の文化、芸術、言語の真髓の解釈、その魅力あふれる表現は、繰り返し鑑賞、視聴する価値があります。清涼な詩歌のころをお楽しみください。ぜひ何回も。